

第 25 講 【 病理と病証 VI 】 教科書 P.78・79

『 脾の弁証(病証) 』

復習 1. 『 脾の生理機能 』

- ① 運 化：脾には 水穀 や 津液 を運輸する働きがある。
- ② 昇 清：脾には 水穀の精 と 津液 を上へ輸送する働きがある。
- * 昇 提：脾には気を上に引き上げ臟腑の下垂等を防ぐ働きがある。
- ③ 統 血：脾には血脈を統括し、血が脈外に漏出するのを防ぐ働きがある。

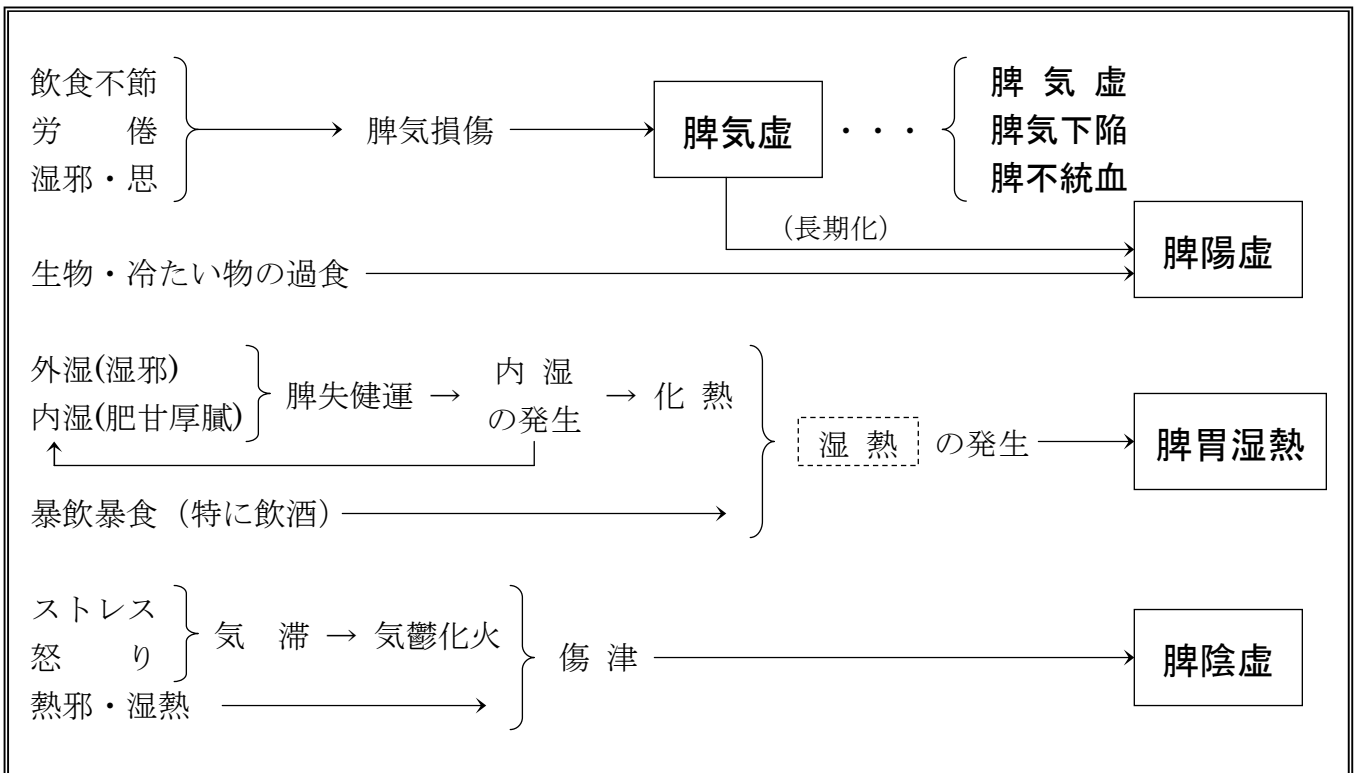
復習 2. 『 脾の気血陰陽失調の傾向 』

脾：脾氣↓ — 脾血 — 脾陰 — 脾陽↓

[分類] { 虚 証：脾氣虚 (脾氣下陷、脾不統血)、脾陽虚
 実 証：脾胃湿熱 (虚実挟雜証とも考えられる)

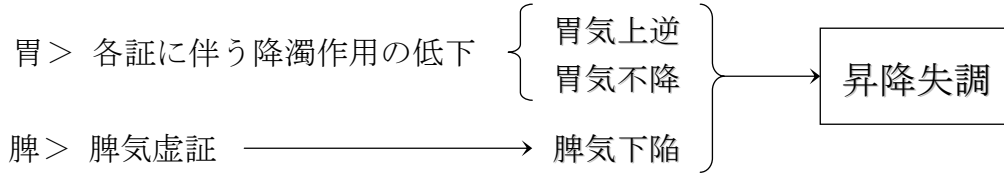
* その他：教科書には[脾陰虚]や[昇降失調]等の記載がある。

[病因病機]



『 昇降失調 』

脾気の運動は「昇清」の働きに代表されるように「昇」である。それに対し表裏関係にある胃気の運動は「降濁」の働きに代表されるように「降」である。この脾胃の昇降の働きに失調が生じたものを教科書では『 昇降失調 』と呼んでいる。



[常見症状]

『 主症状 』

食欲不振、腹部膨満・脹満、消化不良(泥状便・泄瀉)、全身倦怠感、消瘦

- * 運化作用の低下 → 食欲不振、腹部膨満・脹満、消化不良(泥状便・泄瀉)
- * 昇清作用の低下 → (気血津液の生成不足) 全身倦怠感、消瘦

『 代表病証 』

① 脾気虚

: 脾を構成する物質のひとつである脾気が不足した病態。

[症 状] 脾主症状 + 気虚症状

* 脾気下陷

: 脾気虚により運化・昇清作用の低下の他に昇提作用の低下の見られる病態。

[症 状] 脾気虚症状 + 下垂症状

* 脾不統血

: 脾気虚により運化・昇清作用の低下の他に統血作用の低下の見られる病態。

[症 状] 脾気虚症状 + 出血症状

② 脾陽虚

：脾を構成する物質のひとつである脾陽が不足した病態。

[症 状] 脾主症状 + 陽虚症状 (気虚症状+虚寒症状)

③ 脾胃湿熱

：中焦に湿熱がこもっている病態。

[症 状] 脾主症状 + 湿熱症状

* 湿熱症状：口苦、身熱不揚、汗が出てても熱が退かない、口渇不欲飲、皮膚の痒み、黄色粘稠有臭の分泌物 (特に帯下)、舌苔黄膩、脈濡数・滑数 等。

④ 脾陰虚

：脾を構成する物質のひとつである脾陰が不足した病態。

[症 状] 脾主症状 + 陰虚症状 (津液不足症状+虚熱症状)

⑤ 昇降失調

：脾胃の昇降の働きに失調が生じた病態。

[症 状] 脾気虚症状 (脾気下陷症状) + (胃) 降濁失調症状

* 降濁失調症状 { 胃気上逆 → 悪心・嘔吐、噯気
胃気不降 → 食滞

『 代表病証まとめ 』

	証名	八綱	具体症状
①	脾気虚	裏虚	食欲不振、腹部膨満・脹満、消化不良(泥状便・泄瀉)、全身倦怠感、消瘦、倦怠感、精神疲労、無力感、呼吸微弱、自汗、活動後に諸症状悪化、眩暈、舌淡、脈虚・無力
	脾気下陷	裏虚	食欲不振、腹部膨満・脹満、消化不良(泥状便・泄瀉)、全身倦怠感、消瘦、倦怠感、精神疲労、無力感、呼吸微弱、自汗、活動後に諸症状悪化、眩暈、内臓下垂、久泄、痔、脱肛、崩漏、流産、舌淡、脈虚・無力
	脾不統血	裏虚	食欲不振、腹部膨満・脹満、消化不良(泥状便・泄瀉)、全身倦怠感、消瘦、倦怠感、精神疲労、無力感、呼吸微弱、自汗、活動後に諸症状悪化、眩暈、皮下出血、血便、血尿、鼻衄、吐血、喀血等出血症状、舌淡、脈虚・無力
②	脾陽虚	裏虚寒	食欲不振、腹部膨満・脹満、消化不良(泥状便・泄瀉)、全身倦怠感、消瘦、舌淡、寒がる、冷える、喜温喜按等の症状、顔色が白っぽい、多尿透明、舌胖大(齒痕)、脈脈遅・虚・無力
③	脾胃湿熱	裏実・虚実挟雑・熱	食欲不振、腹部膨満・脹満、消化不良(泥状便・泄瀉)、全身倦怠感、消瘦、口苦、身熱不揚、汗が出ても熱が退かない、口渴不欲飲、皮膚の痒み、黄色粘稠有臭の分泌物(特に帯下)、舌苔黄膩、脈濡数・滑数
④	脾陰虚	裏虚熱	食欲不振、腹部膨満・脹満、消化不良(泥状便・泄瀉)、全身倦怠感、消瘦、口・唇・咽喉・皮膚・粘膜等の乾燥、口渴、尿量減少、大便乾燥、微熱、潮熱、五心煩熱、盗汗、舌紅少津、脈細数
⑤	昇降失調	***	食欲不振、腹部膨満・脹満、消化不良(泥状便・泄瀉)、全身倦怠感、消瘦、倦怠感、精神疲労、無力感、呼吸微弱、自汗、活動後に諸症状悪化、眩暈、悪心・嘔吐、噯気、食滯